

公益財団法人 日本バレーボール協会

第3期・2012年度事業計画

(2012年4月1日～2013年3月31日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、バレーボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養する目的（定款より抜粋）を達成するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

近年のわが国におけるバレーボール界は、国際化、情報化、少子高齢化の進展などにより、急激な変革が生じている。また、世界に目を向けるとグローバル化、ボードレス化が顕著であり、これまで以上にバレーボール先進国に対する世界的な期待が高まっている。

こうしたなかで、本年は5～6月に開催されるロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選で男女のバレーボールとビーチバレーで出場権を獲得し、本大会でメダル獲得を目指す。同時に今期よりスタートさせる新中期的強化体制を推進し、バレーボール競技人口の底辺拡大による基盤強化を行い、わが国のバレーボール界統轄組織として広い視野でナショナルチームの強化、競技の普及・振興を行うことで、国際的にも国内的にも高いポジショニングを維持する。

また、今後さらに国際バレーボール連盟（以下「FIVB」という。）との緊密な連携を図り、世界のバレーボール先進国として各種事業を効果的に推進する。

2. 事業内容

（1）競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選での出場権獲得、さらにはロンドンオリンピックでのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

*男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」という。）

を主会場として50～60日間実施。

海外合宿・イタリアで7日間実施。

*女子 国内合宿・NTC を中心に 60～70 日間実施。

海外合宿・中国、スイスで 20 日間実施。

(注1・シニアチームとはトップレベル選手から構成された日本代表チームである。)

*従前と同様に、国内外の災害等の発生に応じて、上記合宿時等に（合宿等実施都市にて）開催する紅白戦の収益やバレーボール教室等における募金活動による募金を義援金として被災地に寄付する活動を行う。

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2013 年度に開催されるユニバーシアード大会（2 年に 1 回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

*男子 国内合宿・NTC ほかに 20 日間程度実施。

*女子 国内合宿・NTC ほかに 20 日間程度実施。

(注2・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権（2 年に 1 回開催）での優勝（2013 世界選手権出場権獲得）を目標に強化合宿を行う。

*男子 国内合宿・NTC ほかに 20 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC を中心に 25 日間実施。

(注3・ジュニアチームとは主に 20 歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

*男子 国内合宿・35 日間実施

*女子 国内合宿・30 日間実施。

(注4・ユースチームとは主に高校生を中心に構成された日本代表チームである。)

5) ビーチバレー日本代表選手強化合宿

ロンドンオリンピックの予選であるコンチネンタルカップでの出場権獲得を目標に FIVB ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施する。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化合宿を、年間を通して実施する。

2) 全国小学生長身選手発掘、全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方 of 立案と提言を行う。
- 2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。
- 3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。
- 4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行う。
- 5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行う。
- 6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施する。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

- *男子 ワールドリーグ（開催国・ロシア、キューバ、セルビア、日本、開催期間・5/18～7/9、除く 5/31～6/10）

（以下同様に記載）

第3回アジアカップ（ベトナム、8/30～9/7）

- *女子 ワールドグランプリ（韓国、日本、中国、6/5～7/2）

第3回アジアカップ（カザフスタン、9/7～9/17）

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- *男女 アジア東部地区選手権大会（未定、調整中）
- *男子 アジアパシフィックカップ（福岡、6/13～6/17）
- *女子 VTV カップ（ベトナム、調整中）

3) ジュニア日本代表チーム

- *男子 ジュニアアジア選手権大会（イラン、9/20～9/28）
- *女子 ジュニアアジア選手権大会（タイ、9/1～9/9）

4) ユース日本代表チーム

- *男子 ユースアジア選手権大会（イラン、10/23～10/31）
- *女子 ユースアジア選手権大会（中国、10/12～10/20）

5) ビーチバレー男女日本代表チーム

- ・AVC コンチネンタルカップ 第3フェーズ（中国、調整中）
- ・ワールドカップ/オリンピック世界最終予選（イタリア、調整中）

- ・ワールドツアー（世界各地で4月～10月まで開催、7、8月はほぼ毎週末開催）14～18大会に派遣
- 6) ビーチバレージュニアクラス男女日本代表チーム
- ・アジアビーチゲームズ（中国、6/16～6/22）
 - ・ビーチバレージュニア世界選手権大会（カナダ、8/28～9/2）
 - ・ビーチバレー世界大学選手権大会（ブラジル、9/12～9/16）

（2）国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

- 1) 2012 ロンドンオリンピックバレーボール世界最終予選兼アジア大陸予選大会
FIVBが4年に1回オリンピックの予選として開催する2012 ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会男女大会（以下「OQT」という。）をFIVBと協力して日本で開催する。

OQTは日本にとって、オリンピック出場資格を獲得するための、アジア大陸予選及び世界最終予選としての最後のチャンスとなる重要な大会である。

開催期間：5月19日～6月10日間の全14試合日

試合数：女子大会 延べ28試合／男子大会 延べ28試合

参加国：各大陸オリンピック予選（FIVB加盟220カ国）でまだオリンピック出場資格未取得国（アジアはアジア大陸予選参加国を含む）男女各8カ国（選手団280人、競技役員30人、計310人が来日予定）

開催都市：東京

- 2) FIVB ワールドグランプリ 2012

FIVBはアジアでの女子バレーボールの発展を目的としてアジア地区で本大会を毎年、開催しているが、本年は予選ラウンドをFIVBと協力して開催する。決勝ラウンドは中国で開催。

開催期間：6月15日～17日、6月22日～24日、計6日間

試合数：延べ12試合

参加国：アジア、ヨーロッパ、北中米、南米の代表16チーム

（選手団120人、競技役員12人、計132人が来日予定）

開催都市：小牧、大阪の2都市。

- 3) FIVB ワールドリーグ 2012

FIVBは毎年、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催しているが、本年はインターコンチネンタル・ラウンドをFIVBと協力して開催する。

開催期間：5月18日～20日の計3日間

試合数：延べ6試合

参加国：日本、キューバ、ロシア、セルビア

開催都市：浜松市

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員ほかを派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会(NF)との友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会(バレーボール教室)開催事業

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の10都道府県で実施する。(参加者見込数・2,500名)

北海道、福島県、新潟県、千葉県、岡山県、京都府、山口県、長崎県、
(四国調整中)、東京都

2) バレーボールを上手になろう～全国小中一貫バレーボール教室

前年度まで別々に実施していた小学生と中学生対象のバレーボール教室の一部を統合し、本年度より小中合同のバレーボール教室を開催する。統合の目的は、一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものである。全国3都道府県で実施する。(参加者見込数・720名)

新潟県柏崎市ほか

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

幼児期にソフトバレーボールを通してスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。本事業は全国9ブロック単位で実施する。(開催ブロックについては調整中)

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

1) 全国小学生バレーボール指導者研修会 (参加者見込数・4,500名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次・第二次講習会を毎年各地で開催しているが、本年度より第三次講習会を併せて以下の15道県で実施する。

山梨県、青森県、高知県、北海道、鳥取県、宮城県、群馬県、愛知県、和歌山県、鹿児島県、静岡県、埼玉県、福井県、岩手県、福岡県

2) 全国中学生バレーボール指導者研修会

(参加者見込数・250名)

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は5都道府県で実施する。

(開催地については調整中)

3) 小中一貫バレーボール指導者研修会兼全国中学生バレーボール指導者研修会

(参加者見込数・300名)

若年層の競技人口拡大のために、小中学生の指導者を育成する事業を展開する。小中学生の指導者が一堂に会して研修する機会を設け、一貫指導の充実とバレーボール人口の拡大を図ることを目的に、全国3会場で実施する。

(開催地については調整中)

4) 小学校体育教材支援事業及び全国小学校ソフトバレーボール実践補助事業

昨年度より「ソフトバレーボール」の小学校体育科教材完全実施化に伴う支援事業を行っているが、これに資するため、小学校教員を対象としたネット型ボール運動「ソフトバレーボール」の冊子を作成するとともに、当該研修会を開催する。(開催地については調整中)

5) 都道府県別バレーボール指導者研修会 (参加者見込数・600名)

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国15都道府県で開催する。

6) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会 (参加者見込数・1,200名)

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に東京都ほかで開催する。

7) ビーチバレー指導者講習会 (参加者見込数・70名)

ビーチバレー指導者を対象に、大阪府で開催する。

8) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員・バレーボール専

門教科認定講習会（参加者見込数・330名）

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

9) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会（参加者見込数・50名）

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都で開催する。

10) ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、バレーボールの将来を考えると、緊急且つ最大の課題となっている。特に小学生、中学生が減少している。その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられる。この課題に取り組むため本会としては横断的・総合的に対処する必要がある。

本会ではこの取り組みを“ゴールドプラン”と称することとし、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組む。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得審査講習会		(本年度は実施しない)	
全国ビーチバレー審判講習会	開催日調整中	2開催（会場は調整中）	60名
全国ラインジャッジ・クリニック	24.04.30～05.02	大阪府	60名
全国9人制審判講習会	24.04.01	大阪府	250名
ブロックA級審判員講習会	24.04.01～08.31	全国各ブロック	950名
技術統計上級判定員認定講習会	開催日調整中	東京都	30名
競技会事前講習会	24.06～24.10	国内競技会開催地	340名
A級審判員研修会（6人制）	24.12.04～06	とどろきアリーナ他	110名
A級審判員研修会（9人制）	25.01.18～20 25.01.25～27	京都府 大阪府	50名 50名

*参加者は見込数

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行う。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー

ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行う。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行う。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和25年(1950年)に全日本9人制選手権大会に下賜されて以来、平成23年までの61年間、日本国内最高のチームに授与され、また平成19年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な大会に生まれ変わったが、本年はその6回目として以下の日程で実施する。

都道府県ラウンド：平成24年4月～7月 各都道府県内体育館
(900チーム・16,200名参加見込)

ブロックラウンド：平成24年9月～10月 各地域ブロック内体育館
(204チーム・3,672名参加見込)

ファイナルラウンド(第1週)：平成24年12月14日～16日(1回戦～準々決勝)

駒沢体育館・都城市早水公園体育文化センター

(第2週)：平成24年12月23日～24日(準決勝・決勝)

都城市早水公園体育文化センター

(48チーム・864名参加見込)

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

都道府県大会 ：平成24年4月～9月 各都道府県内体育館

(2,150チーム・25,800名参加見込)

(参考・都道府県内予選を含めると参加は約6,000チーム)

全国大会 ：平成24年8月7日～10日 とどろきアリーナほか

(都道府県代表98チーム・1,176名参加見込)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教

育活動を行う。

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 24 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館ほか 3 会場（97 チーム・1,455 名参加見込）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 25 年 1 月 5 日～7 日（1 回戦～準々決勝）

会 場：さいたまスーパーアリーナ

開催期間：平成 25 年 1 月 12 日～13 日（準決勝・決勝）

会 場：所沢市民体育館（104 チーム・1,872 名参加見込）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施する。

開催期間：平成 24 年 12 月 3 日～9 日

会 場：川崎市とどろきアリーナほか（250 チーム・4,500 名参加見込）

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレー日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

男子大会：平成 24 年 8 月 17 日～19 日 神奈川県藤沢市鵠沼海岸

（56 チーム・112 名参加見込）

女子大会：平成 24 年 8 月 23 日～26 日 大阪府泉南郡岬町淡輪

（62 チーム・124 名参加見込）

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施する。

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・人数(見込)
全日本⑨実業団女子選手権大会	24.07.19～22	福島県福島市	62 チーム・930 人
全国ママさん大会 (⑨)		(調整中)	48 チーム・720 人
全日本⑨実業団男子選手権大会	24.07.26～29	北海道釧路市	67 チーム・1,005 人
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	24.08.10～13	兵庫県加古川市	62 チーム・930 人
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	24.08.03～06	長野県大町市ほか	67 チーム・1,005 人
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	24.10.11～14	愛知県一宮市	96 チーム・1,440 人
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	24.11.09～12	宮崎県東諸県郡綾町	96 チーム・1,440 人
全日本⑨総合女子選手権大会	25.01.25～28	京都府京都市	52 チーム・780 人
全日本⑨総合男子選手権大会	25.01.18～21	大阪府大阪市	60 チーム・900 人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	24.05.01～06	大阪府大阪市	32 チーム・576 人

全日本クラブカップ男子選手権大会	24.07.27～30	山口県山口市	67チーム・1,139人
全日本クラブカップ女子選手権大会	24.08.02～05	大阪府大阪市	59チーム・1,003人
全国ヤングクラブ優勝大会	24.09.22～23	大阪府門真市・大阪市	98チーム・1,680人
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会			
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	24.08.09～12	神奈川県川崎市	80チーム・160人
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	24.08.04～07	大阪府阪南市	52チーム・156人
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	24.08.09～12	愛媛県伊予市	48チーム・144人
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	24.08.03～05	兵庫県相生市	48チーム・432人
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	24.10.19～21	福岡県福岡市	54チーム・486人
全国ヴィンテージ8'S交流大会	24.10.12～14	北海道小樽市	24チーム・360人

⑧本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程：平成24年10月5日～8日 開催地：岐阜県山県市ほか

2) 日本スポーツマスターズ2012

日程：平成24年10月20日～23日 開催地：高知県高知市ほか

⑨本会、財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程：平成24年7月30日～8月2日 開催地：富山県氷見市ほか

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程：平成24年8月4日～8月7日 開催地：富山県高岡市ほか

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程：平成24年8月1日～4日 開催地：神奈川県平塚市

⑩本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

日程：平成24年8月20日～23日 開催地：東京都渋谷区ほか

(5) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行う。

加盟団体の新公益法人制度に伴う移行作業及び法人化準備作業に向け各種の支援を行う。

(6) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動する。

本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行

うとともに、ロンドンオリンピック開催年である今年度は、重点的に日本代表選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努める。

(7) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

国際大会のバレーボール観戦者においては、観戦を通して国民の一体感や個人のマナーなど、豊かな人間性を育むことを目的に、応援グッズほか本会公認物品の販売を行う。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。また、購入者がより購入しやすい方法として、本年度よりインターネットによる販売を行う。

(9) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構（以下「Vリーグ機構」という。）が主催するVリーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

同時に、Vリーグ機構が全国各地で開催する大会の競技会運営、適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員、技術統計判定員ほかを派遣、Vリーグの開催支援事業を行う。

(10) その他

- ①公益財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業に対して積極的に協力する。
- ②公益財団法人日本オリンピック委員会が推進するオリンピック・ムーブメント、とりわけ本年は7月に行われるロンドンオリンピック日本選手団派遣事業に対して積極的に協力・推進する。
- ③「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に定められた公益認定

の基準を順守するとともに、法人の透明性やガバナンスの確立に注力する。

- ④バレーボール愛好者はもとより青少年や社会人、熟年世代にスポーツを「する」「観る」「支える」楽しさや素晴らしさを伝える広報活動を充実させる。

以上